

## 学校におけるペットボトルキャップリサイクル事業の実装について

本市では、昨年度、黒磯小学校及び黒磯中学校を対象に、「児童生徒にペットボトルのキャップを集めてもらい、それを再利用してごみ袋を製造し、学校へ戻す」という内容でのペットボトルキャップリサイクルの実証事業を行いました。

この事業は、実体験を通じて「資源循環の見える化」を図り、学校における環境教育の一環とするねらいがあります。

本年度は、この事業の対象を拡大して実施をするため、市内全校へ参加希望を募ったところ、半数以上の学校から参加の希望があったため、モデル的に行う実証事業ではなく、通年で実施する事業として実装化することとしました。

### 1. 参加校数及び実施方法

参加校 14校

各学校にて、児童生徒・保護者への回収の周知を図り、学校で回収し、市へ引き渡す。

### 2. リサイクル方法

(1) 学校で使用するごみ袋（45L、90L）を製造し、学校へ戻す。

(2) 市が実施する製品プラスチック等の拠点回収（エコナステーション）で使用するごみ袋や、市の公共施設で使用するごみ袋の原料としても活用。

※回収拠点や公共施設においては、児童生徒が集めたペットボトルキャップをリサイクルしてできた袋を使用していることをPR。

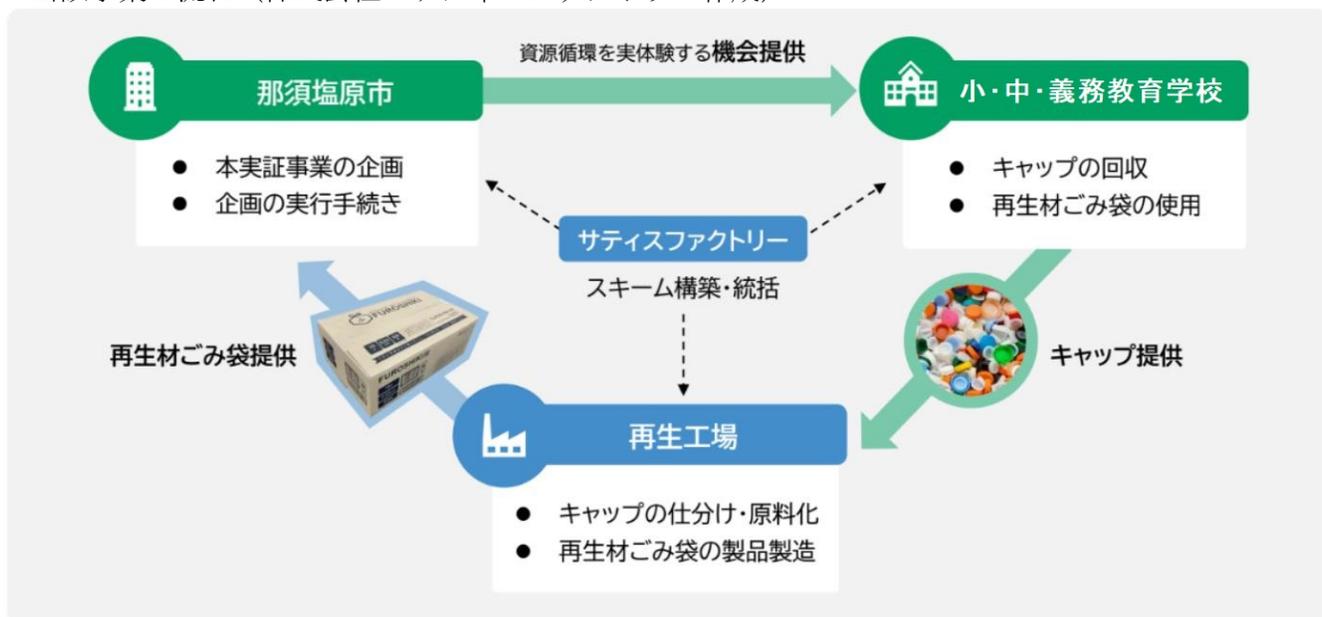
(3) 再生プラスチック製品の原材料として一般市場への流通及び、ごみ袋以外の再生品として、一部地域内への還元についても引き続き検討。

### 3. その他

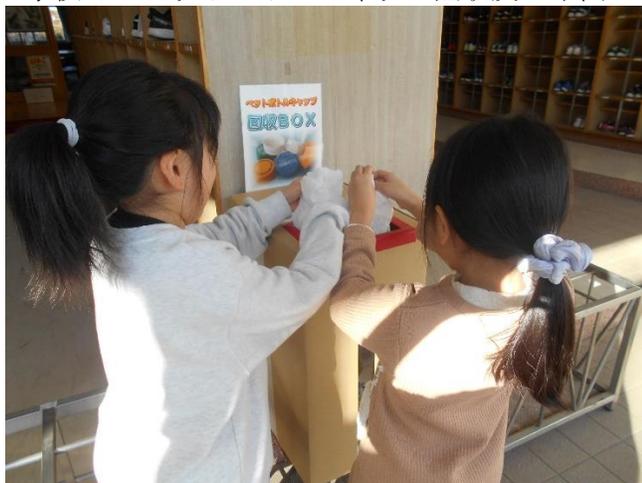
この事業を各学校において無理なく継続して実施することで、児童生徒や保護者、卒業生などの資源循環の取組に対する意識や理解が深まり、地域内においても意識が醸成されることを期待しています。

また、資源循環（リサイクル）を実感してもらうことにより、併せてリデュース（発生抑制）やリユース（再利用）の重要性や、取組の優先順位を再確認してもらえることを期待しています。

(1) 当該事業の流れ（株式会社 サティスファクトリー作成）



(2) 学校でのペットボトルキャップ回収及び市長からのリサイクルごみ袋贈呈式の様子



**黒磯小学校児童コメント**

- ペットボトルキャップを楽しく集めることができた。
- みんながたくさんペットボトルキャップを持ってきてくれたおかげで、あっという間に必要数量を集めることができた。数を数えるのが大変だったけど、とてもうれしかった。
- リサイクルしてできたごみ袋が見られてとてもうれしかった。ペットボトルキャップをリサイクルすることで、ごみ袋が作れることを知らなかった。
- お父さん、お母さん、友達をはじめ、多くの人にリサイクルの取組を広めていきたいと感じた。

**黒磯中学校生徒コメント**

- ペットボトルキャップの数を数えるのが大変だったが、多くの生徒に協力をいただきながら、たくさん集めることができた。
- リサイクルされたごみ袋の実物を見ることで、しっかりとリサイクルをすることができたと実感が持てた。
- ごみ袋については、校内でのごみの収集などで活用していきたい。
- 今回の取組をきっかけに、学校内でリサイクルの取組を広げていきたいと感じた。また、ごみの削減にも取組んでいきたい。